

## 令和7年度 県立高萩高等学校自己評価表

目指す 学校像	(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校 (2) 一人ひとりの多様性を認め、個に応じた支援をする学校 (3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校 (4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校 (5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自分の意見を伝え、他者の意見を聞きながらよりよい課題解決法を見出す人財 ②地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる人財 ③他者と協働して、課題解決を図っていく人財	B
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①多様な学校設定科目から、個に応じた科目選択 ・体験型の学習(リズムエクササイズ、日本の伝統文化《茶道・華道・書道》、折り紙) ・異文化理解(韓国の言語と文化1・2) ・基礎学力定着(基礎数学、基礎から学ぶ英語、基礎国語I、ベーシック社会など) ②フレックスならではの科目 ・ライフスキルを高める心理学…自己理解・他者理解を深め人間関係を構築する力を養う ・魅力! いばらきの農業…生産、収穫を通して勤労意識を高め社会貢献する喜びを学ぶ ③柔軟なカリキュラムの構築による主体的・対話的な学習や特別活動、ボランティア活動などの体験を通し、社会性や勤労観を育み、個に応じた進路実現を目指す ④通級指導の効果的な実施(必要に応じて外部専門機関等との連携推進)	A
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①自己分析しメタ認知することで、得意を伸ばし、苦手を克服しようとする生徒 ②探究心を高め、自分の進路実現を目指し日々努力する生徒 ③学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	B
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 フレックススクールとして7年目となり、過去の実績に加え、更に生徒の個性に応じた支援や進路指導を行うことができた。生徒一人一人に寄り添いながら、個々の長所を伸ばして自己有用感を高めると共に、高校卒業後を見据え、社会性の滋養と自主自立の確立に取り組んできた結果、令和6年度卒業生の進学及び就職希望者は、100%に近い進路決定率を達成した。  【課題】 (1) 一人ひとりの多様性に対応し、個に応じた支援の研究と更なる充実 (2) 『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践、及び実践を促進するためのICTの活用と対話的な学び (3) 「心の居場所づくり」の充実 (4) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路を実現するための研究	(1) 基礎学力の定着に基づく、確かな学力を育む教育の推進	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践のため、相互授業観察を通しての学習指導法の工夫改善を図り「わかる授業」「主体的に取り組む授業」「課題の発見・解決に繋げる授業」の充実に努める。加えて、1人1台のICT端末を有効活用し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、基礎・基本の定着の及び、主体的・意欲的に学ぶ態度の育成に努める。	A
	(2) 全職員の共通理解に基づく授業改善の推進	授業強化週間を利用して相互に授業を参観したり、効果的な授業実践に係る校内研修などを実施したりして、互いに研鑽し合いながら教員一人ひとりが授業力の向上に努め、生徒に「理解できた」という達成感を持たせると共に、生徒が自ら興味関心をもって、主体的に学びに向かう姿勢の涵養に取り組み、探究心の向上をはかる。(「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上)	A
	(3) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな支援体制・特別活動の推進	個別面談の充実を図り、生徒理解に努め生徒との強い信頼関係を構築する。また、学校カウンセリング体制の充実を図り、心の居場所の確保とともに安心して学べる環境の構築・充実に努める。さらに4年目となる「通級」指導については、全職員の共通理解の下、必要に応じて外部専門機関等と連携協力しながら実施する。 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、特別活動や部活動の充実を図りつつ、各種大会やコンテスト等への積極的な参加を促す。さらに	A

別紙様式2（高）

(5) 危機管理体制の確立と安全安心な学校づくり (6) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの積極的な活用 (7) 午前部・午後部の二部制に対応した学校行事の効果的な実施 (8) 広報の工夫と地域との連携の推進 (9) 主体的に取り組む生徒の育成 (10) 通級指導の効果的な実施		キャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を味わい、思いやりの心、規範意識、公共心を醸成し、心豊かな人間性の育成に努める。	
	(4) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かなキャリア教育の推進	将来を見通したキャリア教育の視点に立ち、各年次段階に応じたきめ細かなキャリアガイダンスや進路情報の提供を通して進路意識の向上を図る。また、生徒一人ひとりに望ましい勤労観・職業観を育み、キャリアパスポートを活用して、将来、社会人・職業人として生き甲斐を持って生きていく生徒の育成に努める	B
	(5) 地域に貢献し、地域と連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進	積極的な学校公開や科目履修生の受入、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の健やかな成長を図る。また、ホームページや各種広報活動を通して、フレックススクールとしての特色ある教育活動への理解と協力を得るように努める。	B
	(6) 校務の精選とPDCAサイクルによる学校運営の改善、及び働き方改革の推進	本校の教育活動及び業務について、生徒の自立支援の観点から見直しを進め、必要性の低い業務は削減・縮減し、教職員のマンパワーを必要な業務に注力し、PDCAサイクルを用いて改善を図り、より効果的な学校運営に取り組む。また、校務・情報の共有化と視覚化により、業務分担を明確化し、教職員の勤務時間と業務負担の適正化に努めるとともに、生徒の学びをより豊かなものにできるよう努め、本校の働き方改革を推進する。	A

評価項目	具体的目標	具体的方法	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	家庭学習習慣の定着と基礎・基本の学習の定着を図る	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	A	・定期考査に頼ることなく小テストや課題を効果的に行い、基礎学力の定着と学習習慣を身に付ける工夫が必要である。 ・生徒が主体的に取り組めるよう更なる授業の工夫が必要である。 ・観点別評価の更なる検討が必要である。
		基礎・基本の定着を目指し、ドリルや小テスト等を実施し、生徒の理解度把握に努める。	A	
		定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。	B	
	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践により「課題の発見・解決に繋げる授業」の展開を図る	相互授業観察期間での公開授業で『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践と研究を推進する。さらに、日々の授業でICT機器を有効活用して生徒の授業理解を促進し、主体的に学ぶ意欲を育成する。	A	
		グループワーク等を取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。	B	
		緻密な研究によりシラバスを作成し、観点別評価での評価の観点について生徒に周知し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	
		生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるよう、指導法を工夫する。	A	
生徒一人ひとりの多様性を認め、個に応じたきめ細かい指導を行う	一人ひとりと向き合い、ICT機器を積極的に活用し、個に応じた適切な支援を行う。	A		
	一人ひとりの進路希望の実現が可能な、柔軟なカリキュラムを編成する。	A		
国語	授業の改善に努める	授業の内容・指導方法について担当者が相互に研鑽し、ICT機器を積極的に用いて分かりやすい授業づくりに努める。	A	・ICT活用に努めるとともに、生徒個人の困り感への対応を強化する。
		各自が様々な文章に接することで研修に努める。	B	
		「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B	
	家庭学習の定着に努める	毎時間、前時の復習を行い、定期的にワークシートを点検する。	A	
		小テストを実施することで家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B	
	基礎学力の向上に努める	ワークブックを利用した学習を行い、語彙力を高め、標準的な文章を読めるようにする。	A	

別紙様式2（高）

教	地歴・公民		進学希望者及び成績不振者に対し、課外・補習を実施し、個に応じた支援をする。	A	A	・授業参観や教員間の情報共有等を大切にし、教員の授業改善への意識向上が見られた。多様な生徒への対応(図表や英文の添付等)を考え、生徒が分かる授業となるよう工夫が必要である。
		生徒の実態に合わせた目標を設定し、基礎学力の向上を図る	提出物や授業の様子から生徒の実態を把握し、適切な目標設定を行う。	A		
			小テストやワークシートの記入等を基に、理解するための適切な手立てを考案し、実践する。	A		
		生徒の進路希望に対応した学習指導に努める	理解の不十分な生徒に対しては、つまづいている部分を明確し、教材の工夫等で指導にあたる。	A		
			社会人としての基礎知識を身に付け、個々の進路希望に対応した授業を展開する。	B		
	授業の改善に努める	基礎事項の徹底により、個々の進路希望に対応した授業を展開する。	A			
	数学	基礎学力の向上を図る	「生徒による授業評価」を参考にし、常に改善を意識した授業を実践する。	A		
			小テストや学習プリントで基礎の定着度を把握し、つまづきのある生徒に対して個別指導を実施する。	B		
			定期考査対策や学び直しの補習を実施し、繰り返し指導により学力を積み重ね、考査に取り組みせる。	B		
			わかりやすい教材工夫で学習内容を焦点化し、生徒に考えさせて興味を引き出し、学習意欲を高める。	B		
		家庭学習の定着に努める	授業に活用するノートやファイル、問題集等の定期点検を実施し、生徒の学習状況を確認する。	A		
	個々の理解度にあわせた指導に努める	定期的な課題プリントや長期休業中の宿題を課して定期点検し、家庭学習の習慣を付ける。	B			
	授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B			
	理科	興味・関心をもたせる授業を展開する	授業内容の復習と学び直し中心に個別の質問に対応し、基礎力を養成する。	B		
			「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B		
		基本的な授業態度を身に付ける	ICT機器や実験・観察を積極的に行う。	A		
			日常生活と科学的事象とのつながりを意識した導入・例示を積極的に用いる。	A		
		基礎学力の向上を図る	生徒の発言する機会を多く設け、主体的に授業に取り組みせる。	B		
			授業プリントを定期的に点検し、授業への取組や理解度を点検していく。	A		
	小テストを実施し、学習の理解度を把握し、補習等も実施する。		B			
授業の改善に努める	小中学校理科とのつながりを重視し、基礎的・基本的知識の定着を図る。	B				
	進学希望に十分対応していけるよう、応用的内容の充実を図る。	C				
「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A					
保健体育	個に応じた基礎体力の向上を図る	ICT機器や実験・観察を積極的に行う。	A			
		日常生活と科学的事象とのつながりを意識した導入・例示を積極的に用いる。	A			
	集団行動の意義を理解させる	生徒の発言する機会を多く設け、主体的に授業に取り組みせる。	B			
		授業プリントを定期的に点検し、授業への取組や理解度を点検していく。	A			
	自らの健康を見直し、主体的に判断し行動する資質・能力を高める	小テストを実施し、学習の理解度を把握し、補習等も実施する。	B			
授業の改善に努める	小中学校理科とのつながりを重視し、基礎的・基本的知識の定着を図る。	B				
	進学希望に十分対応していけるよう、応用的内容の充実を図る。	C				
「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A					
芸術	個性豊かな表現の能力を高める	ICT機器を活用し、自分の身体の動かし方を理解させる。	B			
		準備運動には県民体操を全学年に取り入れる。	A			
	芸術文化についての理解を深める	集合・整列・右へならえ等の集団行動を導入段階で行う。	A			
		現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方等について理解させ、自らと比較し、改善することができるようにする。また、生涯学習の観点からも体育理論についても深く理解させるようにする。	A			
	芸術を愛好する心情を育てる	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A			
授業の改善に努める	生徒一人ひとりの特性に配慮し、指導方法を工夫する。	B				
外	芸術文化についての理解を深める	芸術的な見方・考え方を働かせ、芸術文化の多様性について理解を深める。	B			
		音楽・美術の基礎的な能力や態度を育てる。	A			
	授業の改善に努める	芸術活動をとおして、様々な表現方法を体験させ自分の考えを表現する力を育む。	A			
		「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B			
家庭学習の習慣化と基礎・基	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	A				
B	・指導方法やICTの活用方法について教科内で共有をさらに進めて生徒一人ひとりの特性に配慮した指導ができるようにする。					
B	・習熟度別学習の時間を取り入れた個別最適な授業づくり。 ・ICTなどを用いた主体的で対話的な授業づくり。					
A	・今年度は基礎体力の涵養、自己理解と他者理解に焦点を当てて活動を行った。ICT機器の活用は、全年次において少しずつ進んでいる。次年度以降さらに導入しやすい環境作成を心掛ける。					
B	・教科内での指導法の研究と					

別紙様式2 (高)

教	国語	本の定着を図る	基礎・基本の定着を目指して、小テストを実施し、生徒の理解度把握に努める。	B	共有をはかる ・多様な進路に応じた学習方法の研究を行う。 ・教材の選定と指導内容を検討する。
			定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。	B	
	「わかる授業」、「教えて考えさせる授業」の展開を図る	「わかる授業」で生徒に達成感をもたせ、主体的に学ぶ意欲を育成する。	B		
		ペア・グループワークを取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。	B		
		学習内容を精選し、生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるように、指導法を工夫する。	A		
	生徒一人ひとりを大切にす きめ細かい指導を行う	一人ひとりの習熟度に応じた適切な指導を行う。	B		
		一人ひとりが希望進路を実現できるように、個に応じた指導を行う。	B		
異文化理解を深める	英語母語話者であるALTの英語に触れさせ、実践的コミュニケーション能力を養成する。	A			
授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A			
科	家庭	基礎的・基本的な知識と技術の 定着を図る	ICTや学習ノート等を活用し、わかる授業に努める。	A	B ・単元テスト等が実施できなかったため、来年度は実施し、きめ細かい指導を心がけたい。
			実習においては、実習助手とともにきめ細かい指導を心がける。	A	
	安全管理の徹底に努める	衛生に気を配り、事故やけがの無いようにする。	B		
		包丁・調理器具等の数の点検を毎時間行い、備品の管理を徹底する。	B		
	楽しく意欲的に取り組める授 業づくりに努める	考える時間、実習する時間を十分に確保する。	A		
	定期的な提出物の確認を通して、学習意欲を高めるとともに、つまずきに気付き支援する。	B			
授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B			
指	農業	基礎的な知識と技術の定着を 図る	生育環境や身近な草花や作物の栽培法を理解し、実習を通して収穫の喜びを知る。	B	B ・今年度の実習をさらに発展させ、体系的なものにする。 ・農業の学習にタブレットを用いることで、草花や作物の栽培に関して理解を深める。
			県内農業の特徴を理解し、産業の分布と地域性を学ぶ。	B	
			ICTを活用し、わかる授業に努める。	A	
	安全衛生管理の意識を持たせ る	生産物の加工を通して、食品の安全と衛生管理を理解し、生活に生かすことが出来る力を身につける。	B		
		農機具・造園用具の使用法を徹底させ、安全な利用の定着を図る。	A		
	命の大切さを体得する	草花や作物の栽培を通して、命を育む大切さを理解させる。	A		
	草花や作物の利用を通して、人間が生活するために命を利用する必要性を理解する。	B			
授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	B			
導	総合	「ライフスキルを高める心理 学」：豊かな人間関係をつくる	自己理解、他者理解を通して、豊かな人間関係をつくる。	A	A ・授業の成果が学校生活にフィードバックできる体制を整える。 ・興味関心の高い分野を選択し、集中し意欲的に学習に取り組んだ。次年度もさらなる向上を目指し、継続していくことが求められる。
			対人関係におけるスキルを習得する。	A	
			心身の健康を保つ力を養い、自分の生き方について考える。	A	
			「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A	
	「リズムエクササイズ」：コミュ ニケーション能力を育成す る	リズムに乗った動きを通し、自己表現することで、心と体をほぐす。	A		
		集団でエクササイズをすることにより、他者との関わりを広げる。	A		
		「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A		
	「日本の伝統文化」：日本の伝 統文化への理解を深める	華道・茶道・書道などの日本の伝統文化に触れる。	A		
		活動を通して他者との関わりを学び、コミュニケーション能力を身に付ける。	A		
		「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A		
「折り紙」：折り紙をつくるこ とで達成感を得る	折紙の基礎的な技法を学び、日本の伝統文化である折紙の美しさを感じる。	A			
	作成した折り紙で他者と遊び、コミュニケーション能力を身に付ける。	A			
	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A			

別紙様式2（高）

	「韓国の言語と文化1・2」：韓国語と韓国文化の理解を深める	韓国語の初級・中級文法を習得し、会話の能力を高めて韓国語に親しむ。 韓国の文化に触れる。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上を目指す。	A A A			
教務	本校の実態にあった教育課程を作る	本校の特色を出した教育課程を編成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の検討に関するスケジュールを見直してより積極的に意見を収集し、より良い教育課程の編成を行う。</li> <li>授業時数確保のため、学校行事の設定日を調節する。</li> <li>総合的な探究の時間の活動をより活発に行う。</li> </ul>	
	適正な行事の配置と授業時間の確保に努める	年間・月間行事予定の作成、日課・授業変更調整等を各年次・各分掌と連携をとって行う。 できるだけ多くの授業時間を確保し、生徒の基礎学力向上を目指す。	B B			
	人権・ジェンダーや同和問題への関心・理解を深める	研修を通して、諸問題を理解し、意見を交換することによって考えを深める。	B			
	広報誌や学校説明会を通じて広報活動を活発に行う	ポスター・スクールガイド・萩高だよりの作成・配布を通して、中学校に本校の現状を発信する。	A			
	図書の精選・充実を図るとともに、図書館利用の推進を図る	生徒への図書館情報の発信に努め、カウンター当番や図書の管理など、図書委員会活動を活発に行う。 蔵書の充実を図る。 授業・LHR・総合的な探究の時間・課外活動などでの有効利用を図る。	A A B			
	PTAや同窓会と連携して生徒の教育活動の支援に努める		評議員会やPTA総会・講演会等における出席率の向上を目指し、綿密な連絡、事前準備、計画を行う。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会やPTA研修旅行は滞りなく終了した。多くの保護者に参加してもらえるようPTA行事の企画・運営を行いたい。</li> </ul>
			研修・広報・生徒指導の3委員会活動の綿密な計画、事前準備を行う。	A		
			講演会の形式や研修旅行の内容見直しを図り、会員相互の研究、研修を充実させる。	A		
			PTA会報や配付文書の内容を見直し、保護者に学校内における生徒の活動状況や教職員の努力の姿勢を十分に伝えることを心がける。	B		
			学校行事等の連絡を徹底し、学校と家庭の連携を強化する。 同窓会の運営を滞りなく行う。	A A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	日々の教育活動（服装指導・授業強化等）を通して、社会で通用する人材の育成を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめと認定した案件にSNSが関わるものが多数見られた。メディアリテラシーを含め、インターネット利用について更なる指導が必要である。</li> <li>ヘルメット着用を促す。</li> </ul>	
		家庭・地域・関係機関との連携（マナーアップ等）を図り、いじめ・非行等の未然防止に努める。	B			
	生徒理解の深化	生徒個人面談等で生徒の心の声を拾い上げ、軽微なSOSに対しても教職員の一致協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。	A			
		生徒の実態・発達段階を踏まえながら、生徒が自己有用感を持てるよう寄り添い指導にあたる。	A			
	安全教育の充実	朝夕の声かけ指導や通学路巡回の強化、交通関係の届（原付免許取得届等）等の提出の徹底を図る。	A			
学校安全教育（交通講話等）の実践及び交通安全教育の推進に努める。		B				
特別活動	生徒会役員や各種委員会を中心とした魅力ある学校生活の実現	生徒評議会を開催し、クラスや各種委員会での話し合い活動の定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートへの記入だけでなく、積極的な活用方法を提案する。</li> <li>生徒会と全校生徒、教員の情報共有を徹底する。</li> </ul>	
		一人一役による、生徒一人ひとりが活躍できる環境づくりに努める。 キャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を共有し、自己承認感を育む。	B			
	生徒会活動の活性化	生徒会活動が全校生徒によって運営されるように努める。	A			
		生徒会選挙では、実際の選挙に近づけて学びの場としての機能を設ける。	A			
	行事への積極的な参加	スポーツデイや芸術鑑賞会において生徒主体で企画・運営ができるように支援する。	A			
部活動の活性化	加入率5割を目指し、勧誘活動の拡大及び地域や中学校への積極的なPR等に努める。 定時制通信制体育大会等への参加を通して、生徒の自己肯定感の向上を図る。	B A				
進	進路決定率100%を目指す。	各年次と連携し、早い時期からの進路研究を促す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習の実施を含めた進</li> </ul>	

別紙様式2（高）

路 指 導		学校教育活動全般を通して、生徒の進路意識向上を図る。	B	路決定に向けて、生徒の情報収集を強化する。 ・夏季休業中のスケジュールを明確にし、十分な準備の時間を確保する。
	適切な進路選択と早期進路決定を図る。	進路希望調査を実施し、希望に応じた進路ガイダンスを実施する。	A	
		進路体験学習、インターンシップへの参加を促す。	A	
	個性や能力に応じた適切な指導に努める。	課外授業、模擬試験、資格試験等、生徒の要望に応じて適切な設定をする。	B	
		希望進路に応じた面接指導、作文指導の充実を図る。	B	
	全校集会や年次集会における進路講話を通して、キャリア教育の充実に努める。	(進学) 進学の目的を明確にし、進路実現のための学校選択ができるようにする。	A	
(就職) 働く意義を理解し、将来設計できるようなキャリア教育の充実に努める。		A		
進路情報の提供と情報の積極的な活用を促進する。	生生徒や保護者にわかりやすく情報を提供し、進路資料室の活用等、情報の積極的な活用を促す。	B		
保 健 厚 生	生徒・教職員の健康の保持・増進に努める	年間計画に基づき、健康管理、保健指導、健康診断、生活環境調査等の円滑な実施を行うとともに、保健だよりを通して、生徒・教職員に保健指導を行う。	A	A ・支援が必要な生徒については、SC や生徒支援委員会からの意見を教員間で共有し、継続的な教育相談の充実に努める。 ・安全な学校生活を過ごすために、環境整備についての指導や安全点検を継続する。
		心身の健康が気になる生徒については、担任、年次主任等との日常的な報告・連絡を密にする。	A	
	学校の環境整備・美化に努める	掲示物やクラスでの清掃オリエンテーションを通して、清掃、ゴミの分別処理等の徹底を図る。	B	
		校内安全点検を定期的に行い、校舎内外の改善箇所を把握する。	A	
	火災や地震等の災害防止に努める	エアコンの使用上の注意を周知し、体調管理や節電に留意するよう促す。	B	
		防災訓練の在り方を工夫・改善したり、災害対応備蓄品を整備したりして非常時に備える。	A	
関係諸機関の連携と教育相談の充実	危機管理マニュアルを作成し、教職員に非常時の対応について周知する。	B		
	生徒個人面談を強化するとともに、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの活用と教職員の協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。	A		
1 年 次	生徒一人一人の特性を理解した支援・指導により気付きを与え、自信を持たせる。	生徒達への声掛け、休み時間の観察、生徒面談等を通して生徒の状況把握及び生徒理解に努める。	A	A ・特別な支援を要する生徒への対応ができる環境整備。 ・生徒の進路等を見据え、外部との更なる連携強化。 ・通級やキャリアデザイン等を通して、個に応じた支援を更に充実させていく。
		部活動や各種委員会・生徒会活動等での一人一役活動により生徒の自己有用感を育む。	B	
		生徒のチャレンジを褒め・育てる加点主義による指導で生徒の自己肯定感を育む。	A	
	保護者と協力しながら自立を目指した教育活動の実践	良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。	A	
		年次・学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。	A	
	教師の個性を活かしたチーム対応で、生徒が安心できる環境をつくる	機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。	A	
計画的に年次集會を開催し、午前部・午後部で指導の統一を図る。		B		
	教員間の相互協力を通して、相乗効果を発揮する。	A		
2 年 次	基本的な生活習慣の確立に努める	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。	A	A ・卒業後の社会生活に向けて、基本的な生活習慣や社会マナーを身につける。 ・個々が進路の目標を明確に定め、自分のよさを生かした進路選択ができるようにする。
		社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。	B	
	保護者との信頼関係を構築する	良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。	A	
		学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。	A	
	教員間の密な連携により、組織的に活動する	機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。	A	
		計画的に年次集會を開催し、午前部・午後部で指導の統一を図る。	A	
	教員間の相互協力を通して、相乗効果を発揮する。	A		
3 年 次	社会的自立に向けた基本的な生活習慣の確立に努める	時間を守る意識を身に付けるために予鈴着席、5分前行動を徹底させる。	B	A ・自己選択、自己決定ができるよう、教員が情報提供や助言をすることで、年内に大半の生徒が進路決定につ
		社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。	B	
	学校・家庭・生徒の相互の信頼関係を深める	生徒の強みや弱みを家庭と共有し、現実を見据えた進路選択ができるように関係機関等の情報や助言を参考にしながら、進路を自己決定できる環境をつくる。	A	

別紙様式2（高）

		年次・学級通信等を活用し、学校生活の様子を家庭に知らせたり、協力を呼び掛けたりする。	A		なげられた。基本的な生活習慣・社会的マナーを確立がし基本的な生活習慣、社会的マナーを確立し将来像をより具体化した進路指導が課題である。
	卒業後の進路に対する意識や目標を持たせ、授業を大切に する態度を育てる	適切な情報を生徒に提供し、卒業後の具体的な生活をイメージできるようにする。	A		
4 年 次	基本的な生活習慣の確立に努める	時間を守る意識を身に付けるために予鈴着席、5分前行動を徹底させる。	A	A	・昨年度、卒業に向けた学校生活を経験しており、各自が見通しを持った生活を送ることができていた。そのため進路指導もスムーズに進められた。4年間を見越した計画や少人数の教育環境に合わせた活動の工夫等が課題である。
	学校・家庭・生徒・関係機関との連携を深めて主体的な進路選択の基盤をつくる	社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。	B		
		生徒の強みや弱みを家庭と共有し、現実を見据えた進路選択ができるように関係機関等の情報や助言を参考にしながら、進路を自己決定できる環境をつくる。	A		
	卒業後の生活に対する意識向上と自分の目標を明確にできる学習内容を設定する。	年次・学級通信等を活用し、学校生活の様子を家庭に知らせたり、協力を呼び掛けたりする。	A		
		適切な情報を生徒に提供し、卒業後の具体的な生活をイメージできるようにする。	A		
		進路行事や授業等を通じて、自己理解を広げながら自分の目標を明確にし、適正に合った進路選択ができる学習を実践する。	A		

※評価基準 A：大変良くできている B：良くできている C：やや不十分 D：不十分 E：わからない